

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団事務局  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969



# だより

— つながれ ひろがれ —

## 第22回「エコメッセ2017 in ちば」開催報告 ～進め！COOL CHOICE～

エコメッセちば実行委員会 委員長 桑波田 和子

平成29年10月9日(月・祝)第22回「エコメッセ2017 in ちば」を開催しました。ご来場、ご出展、ご協賛の皆さまに感謝申し上げます。

千葉県内外から8,000人の来場者をいただき、出展団体は96団体でした。10月8・9日の連休は、久しぶりのお天気となり、行楽地にお出かけの人が多かったのか？エコメッセの来場者が例年より少し少なくなりました。しかし、開催前から親子での来場の姿があちこちで見られ、開催する側として「やる気！」をいただきました。

今年のエコメッセのテーマは、「進め！COOL CHOICE」でした。環境省が国民運動にと提唱していますが、普及はまだ不十分だということで、昨年のエコメッセのテーマ「みつけよう私のCOOL CHOICE」をもっと広めていこうと22回のテーマを決めました。出展団体でCOOL CHOICEに既に登録されている団体数は43団体でした。

エコメッセ開催前の8時から幕張メッセ周辺をきれいにしようと、まるごみJAPANさんのご協力でゴミ拾いをしてくださり、気持ちよくエコメッセがスタートしました。

実行委員会として今回初めて企画しました「持続可能な食生活～始めよう食エコ～」では、フードドライブやフードロスについてのパネルディスカッションをエコステージで行い、午後の千葉県の3Rシンポジウムへつなぎました。また、やってみよう！エコスタイルクッキングでは、動画を使って、見やすく、楽しくプレゼンしました。食エコレシピも募集し、レシピ集をエコステージ前のテーブルなどに置き、身近な工夫を来場者の方へお伝えしました。

また、フードドライブとして、家庭に眠っている食品を来場の方などに、ご持参いただき約30kgになり、フードバンクちばさまのご協力で必要な方へ活用していただいております。

エコメッセでは、子どもから大人まで楽しく体

験し、出展者との意見交換等を通して、学ぶことができます。この気づきから行動する人を期待して、出展団体では、体験・お客様とのやり取りなど、屋内・屋外の各ブースもにぎわっていました。主に子ども対象として、子ども環境教室から風船から学ぶ房総半島の自然では、風船の海や森などで、ゲームやクイズをやりながら千葉県の自然と社会のルールを学ぶことができ、親子でにぎわっていました。

千葉県3Rシンポジウムでは、「食品ロスの削減」をテーマに、事例発表やパネルディスカッションが行われ、日本の食品の廃棄率削減の意識付けとなりました。

今年はアンケート付きスタンプラリーとして配布し、約1000人の方の回答をいただいております。エコメッセの今後に活用させていただきます。

最後に環境パートナーシップちばでは、20周年記念事業の一環として、高木幹夫氏(日能研代表)に、「子ども達の持続可能な社会に向けて、親世代ができること」の講演会を開催しました。また、千葉県環境講座「子ども環境会議ちば」を開催し、ブースでは、印旛沼に住む魚の実寸大を作り、釣りゲームを通して魚の生態や外来種について楽しく学んでもらいました。

無事に終了したエコメッセですが、当日は、高校生・一般ほか、70名のボランティアのご支援もいただき運営しました。資金面は、出展料、協賛金、ちば環境再生基金の補助などです。

来年のエコメッセは、平成30年10月8日(月・祝)幕張メッセで開催の予定です。みなさまのご予定に入れていただければ幸いです。



## 平成29年度千葉県環境講座報告

## 「こども環境会議ちば」

10月9日(祝)、千葉県環境講座として幕張メッセ国際会議場で「こども環境会議ちば」が行われました。今年は、こどもエコクラブ全国事務局の大西さんと東さんを講師に、千葉県内のこどもエコクラブのメンバー約70名が集まり、活動発表と交流を行いました。

千葉県環境研究センターの櫻岡次長の挨拶の後、今回のために特別に作られたエコまる帽子をかぶった大西さん登場！仲間作りのゲームやビンゴで、子どもたちもサポーターの大人たちもすぐに和やかな空気になりました。

打ち解けた後は、今回参加した7つのクラブごとに活動発表を行いました。手作りの壁新聞やスライドを使い、分かりやすく伝える工夫が光ります。内容もクラブごとに特色があり、ごみをテーマに処分場やリサイクル工場を見学したり、生ごみ堆肥を作ったり。自然体験やイベントに参加したり、自分たちで野菜を栽培したりと多岐にわたります。そして発表を聞くだけでなく、「ここがすごい!」「ここが良かった!」と思ったことをシー

トに書いてもらいましたが、お互いに刺激を受けている様子が伝わってきました。「紙すきのやり方を教えてください」など、新たな交流が生まれそうなシートもありました。

その後、クラブごとにまとめられたシートを基に、どんなメッセージをもらったらうれしいかメンバー全員で話し合い、あらかじめペアになったクラブにメッセージを書きます。それをメダルの中に入れ、一人ひとりお互いの首にかけて贈り合うメダル交換を行いました。最後に記念撮影を行い、来年もまた会おうね!と声をかけ閉会となりました。



(文責：広田 由紀江)

## 環境パートナーシップちば20周年記念事業

## 講演「子ども達の持続可能な社会に向けて親世代ができること」開催報告

開催日：10月9日(月・祝) 14:00~15:30

会場：幕張メッセ国際会議場 201 会議室

講師：高木 幹夫氏 (日能研代表)

環境パートナーシップちば設立20周年事業の一つとして、上記の講演会を開催しました。

講師の高木氏は、進学塾の日能研代表としてご活躍されていますが、一方持続可能な開発のための教育(ESD)に長年関わられています。環境問題を考える際に、多面的な見方を伝える、「環境を考えるBOOK」(日能研発行)では、日能研の広告コピーの「シカクいアタマをマルくする」のように、大人も新たな視点を見いだせるものだそうです。

講演会はエコメッセ2017inちばを開催中の午後2時から、90分間行いました。高木講師の「この講演会の最後は、まとめないものにしたい」と話され、講師からの問いかけに、参加者間で話し合いの時間を取りながら進められました。

前半は、ギリシャ語のクロノス(一定の法則で流れている時間)とカイロス(主観的な時間)についてでした。隣の方とこのことについておしゃべりタイムがあり、講師からの「2つの時間を意図しないで意識的にやれるようになればよいですね」「学

びはまとめなければいけないのか?」とも投げかけられました。「持続可能とはどのようなことなのか?」「持続可能が当たり前になるのに何年かかるのか?」など、考えさせられました。

エジソンの「僕は失敗をしたことがない。電気がつかないことが証明できた」、講師の「自分を肯定したら他人も肯定できる」などの言葉も印象に残りました。

企画側としては、講演会のテーマに答えをいただけたかと思っていましたが、「シカクいアタマをマルくする」私たちの学びの場であったと思います。

(文責：桑波田 和子)



## 第22回『エコメッセ2017 inちば』に参加

10月9日(月・祝)幕張メッセで開催されたこの行事に出展しました。この秋に参加したイベントの出し物として、今まで行っていた「印旛沼の魚釣りゲーム」を少し進化させた形の提案が、エコメッセで実現しました。

そもそもが印旛沼に棲む魚を知ってもらうことが目的で、今回の進化の重要なポイントは、魚を実寸大で作ったことです。登場する魚は外来種を含め印旛沼に生息する代表的な生き物です。例えばコイは全長50cm、ブルーギルは25cm、オオクチバスは30~50cm、ウナギは80cm、ヨシノボリは7cm。実寸大で布製の魚を作りました(いわゆるぬいぐるみ)。釣竿で釣り上げた魚を、実寸大のシルエットが描かれた紙に合わせ名前を調べ、さらにその魚についてまとめられた表で豆知識を得ることができるという内容です。

会場で「魚釣りゲームをしませんか?」と呼びかけると、子どもたちの多くが「やりたい!」と反応してくれました。釣られた魚の人気ナンバーワンは、コイでした。用意した魚の中で一番大きかったからでしょうか。二番人気は、ブルーギル、

続いてウナギ、その次がゲンゴロブナとオオクチバス。人気のなかったのが、アメリカザリガニとドジョウでした。アメリカザリガニは赤くて可愛らしい(製作者としては、苦勞して作ったので愛着があります)のに、釣りにくい、あるいは小さくて目立たなかったせい、またドジョウは小さくて地味だったせい、釣る対象としては不人気でした。参加者には恒例のフウセンカズラの種のプレゼントがありました。



イベント会場でキョロキョロと落ち着きなく歩いている人たち(特に子ども)に、関心をもってもらう要点を伝える効果的な内容を練り準備することは、結構難しいことです。今回の反省点を活かして、内容の改善を図りたいと思います。

(文責:中村 明子)

### 平成29年度千葉県環境講座報告

## 「キノコから見えてくる自然」 ～キノコ探しを体験してみよう～

10月12日(木)君津市豊英ダム湖内に浮かぶ豊英島の「ちば千年の森」でキノコを学ぶ講座のバスツアーを開催しました。

スタッフを含め総勢48名と現地で合流した千葉テレビの取材班3名が島を訪れました。豊英島へはつり橋を渡って入ります。ここは会の活動以外は人の出入りがなく人為的な影響が少ないため「生物多様性保全をめざす超長期な森づくり」を実践しているとのこと。

講座は、千葉県立博物館の吹春俊光氏と、ちば千年の森をつくる会の坂本文雄代表に講師を依頼し、2班に分かれ、安全対策上全員ヘルメット着用で森に入る体験学習です(ヘルメットは、ちば里山センター副理事長の伊藤道夫氏がわざわざ準備くださいました)。

参加者の中には、採集が初めての方も多く、午前中は森の中でキノコ探し、落ち葉の中から巨大キノコを発見しては歓声が響き渡りました。午後は種別解説で参加者が籠いっばいに採集したキノコをブルーシートに山積みし、これを吹春講師が手際よく種別に選別したものが約55種類。講師

のユーモアたっぷりの解説に参加者全員が聞きほれてキノコの世界に引き込まれてしまいました。



採集したキノコは初めて目にするものが多く、なかでも巨大なコウタケはグロテスク姿にもかかわらず味よし香りよしとの解説や沢山採れた大きなウラベニホテイシメジの山積みも印象的でした。

今までキノコの知識は店頭に並んだキノコ程度でしたが、採集したキノコを観察で知り、更に解説では「キノコは菌類で、胞子をつくる特殊な器官の姿で森に出現し、植物との共生関係を保って森づくりに大きな役割を果たしている」とのことで、参加者は一層の理解が得られた様子できっと明日から森の見方が変わってくるものと確信しました。

(文責:萩原 耕作)

## 平成29年度千葉県環境講座報告

## 「気象変動の適応策」 ～気象防災～

地球温暖化対策には、温室効果ガスを減らす「緩和策」と、温暖化による悪影響に備える「適応策」がありますが、具体的な「適応策」について気象防災の観点からNPO法人気象キャスターネットワーク副代表で気象予報士 岩谷忠幸氏から、10月27日(金)千葉県生涯学習センターでお話をお聞きしました。

地球の年平均気温は過去132年で0.85℃上昇し、日本では100年で約1.2℃、千葉市では50年で約2.0℃上昇し、様々な悪影響が発生しています。“桜咲く入学式”は、今や卒業式のころが桜の開花時期となり、植物にとってよくない状況になっています。また、熱中症で亡くなったのは2016年524人、2010年1731人で、気象災害では最大の死亡原因となっています。

地球温暖化(気候変動)は長期的に気温が上がることをいい、様々な現象を引き起こします。気温上昇により水蒸気上昇量が増え雨が降りやすくなります。海水温が上がり海面が上昇し、台風が接近すると高潮が発生しやすくなり、暖かい海面から補給される水蒸気がエネルギー源になり台風

の勢力は大きくなります。気象防災としては、天気予報で最新情報を入手し、防災行動計画を立てることが重要です。土砂災害警戒情報・氾濫危険情報等の各種予報や警戒情報が、いつどんな状況でどんな情報が出されるかを把握し、あらかじめどんなときに何をどのようにするかを決めておく(タイムライン)、各自治体が作成するハザードマップを読み込み、自宅と避難所までの避難経路をあらかじめ把握しておくことです。

今年は10月に入って2つの大型台風が日本を襲いましたが、その2つの台風のはざまの穏やかな日に開催された講演でしたが、日頃から気象災害への対策をしておくことが重要だと思いながら帰路につきました。(文責：川島 謙治)



## 講演「環境研究センターにおける様々な調査研究等の紹介」

千葉県環境講座において、環境研究センターの最近行った調査研究等について研究員が紹介する講演会が2017年11月18日(土)に開催されました。会場は、船橋市勤労市民センターでした。講演テーマは、4つ。

「いまどきの酸性雨問題とは？」では、大気騒音振動研究室の横山新紀主席研究員から、近年千葉県でも中国の発生源の変動を受けたと見られる濃度上昇に転じているため、推移を注意深く見守る必要があるとのことでした。

「千葉県における有害化学物質の調査について」では、廃棄物・化学物質研究室 栗原正憲上席研究員から、廃棄物の処分場・河川・湖沼・道路の堆積物の有害化学物質の調査結果の発表があり、これらは地球の広範囲に及んでいることが確認されていて、生活する誰もが当事者であることから、環境のことを考えるきっかけにしてくださいとのこと。



「液状化についてどんなことを調べているの？」では、地質環境研究室荻津達研究員から、調査の結果から噴砂が見られた場所で地震の揺れと地震による間隙水圧の上昇量も大きいことが分かったので、データを収集し課題の解明を目指すとのこと。

「手賀沼における放射性物質動態調査について」では、水質環境研究室中田利明主任上席研究員から、手賀沼内の放射性セシウムは変化していて、上流域からの影響も受けているため、今後も調査を進めていく必要があるとのことでした。

各発表の後には、各々有意義な質疑応答があり、参加者にとって貴重な講演会となりました。

(文責：横山 清美)



## 公民館における環境教育講座 実施報告

環境パートナーシップちばでは、毎年千葉市が実施している環境教育講座にいろいろな環境学習プログラムを提案していますが、今年度はその中から、リサイクル工作「ふりふり石けんづくり」の実施依頼をいただき、10月22日に講師：桑波田、スタッフ：中村、小倉の3名で千葉市稲毛区の緑が丘公民館にお邪魔してきました。

当日は台風21号の襲来と重なり、参加者が集まってくれるかどうか心配していたのですが、全員出席で関係者一同ほっとしました。

最初に簡単な導入で、「みんな唐揚げは好きかな？」次に「使った油はどうするの？」という超ミニ講座があり、お料理に使った油は捨てたらもったいない、近くでは花見川・稲毛区環境事務所で廃食油の回収をしていることなどをお話ししました。

さて、メインの石けん作りです。講師からひとつひとつの作り方の実演をお見せした後、いよいよ全員で「ふりふり石けん」づくりの始まりです。事前に薬品（オルトケイ酸ナトリウム）を入れてあるペッ



トボトルの中に、水を加えて薬品を溶かし、さらに参加者が家から持ってきた「(何回も)揚げ物に使った油」を入れて、よく振ります(この工程が「ふりふり石けん」のネーミングの由来です)。

「ようかい体操第二」のBGMに乗せて、参加者が思い思いのやり方でペットボトルを20分間振り混ぜると、中身は、ほぼ固まった人、ドロっとした人などいろいろ。でも講師から、今あまり固まっていなくても明日には固まっていますよ、と励まされ、安心しました。

最後に、揚げ物の油は何回も使えること、油を捨てないことの他にも、台所からの水の汚れを少なくする工夫などをお話しして、講座を終えました。

参加者アンケート(子供)では、油でせっけんが作れるということを知らなかった、という声がたくさんありました。(文責：小倉 久子)



## 第7回Eボート千葉大会 参加報告

浦安水辺の会 橋本 公江

2017年10月21日(土)、「ハーバーシティ蘇我」で、恒例のEボート大会が開催されました。

Eボートの“E”には、Everybody(誰でも)、Easy(簡単に)、Enjoy(楽しむ)、Exchange(交流する)、Eco-life(エコライフ)、Environment(環境)、Emergency(緊急・非常時)など色々な意味が込められているらしいのですが、私はとにかくにもENJOYのEだと思っています。

当日の予報は雨。午前中は小雨程度との希望的予想はすっかり外れ、開会式が終わるところから本降りになった雨は、一向にやむ気配はなく、時々風まで強くなる有様。それでも、集まったメンバーの熱いこと！半袖チームあり、白鳥の湖チームあり、約300名が集まり、熱戦を繰りひろげました。雨にもマケズ、風にもマケズ、午前中2回の予選、お昼には東京理科大の和太鼓サークルさんの演奏、午後から決勝、ガラポン大会を含む閉会式と最後まで予定の全てをやりきりました。

今年初めて参加した、あるチームの方から、「次はいつ？」と聞かれました。10人で力を合わせて漕ぐEボートの魅力に、すっかり取り憑かれた様子です。みんなで競って漕ぐEボート大会も魅力的ですが、色んな河川や湖で赤いゴムボートを浮かべて漕ぐのも楽しいものです。是非みなさんも機会があれば、乗ってみてください！

後片付けのころ、ようやく雨が上がりました。せめて、もう少し早ければ…。いやいや、やっぱりお日さまの下でやりたかったな…。



## 手賀沼にオオバナミズキンバイが侵入・繁茂

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 小倉 久子

2017年11月15日(水)に、「手賀沼緊急事態！考えよう、外来水生植物対策」という勉強会が我孫子市の手賀沼親水広場で開かれ、60名を超える参加者が集まりました(美しい手賀沼を愛する市民の連合会主催)。

今年の6月に手賀沼公園の湖畔で発見されたオオバナミズキンバイ(以下、オオバナ)は、一般にはまだ余り知られていませんが、特定外来生物に指定されている侵略性の高い水草で、琵琶湖で猛威を振るっていることで有名です。既に手賀沼や印旛沼ではナガエツルノゲイトウというやっかいな外来水草が入り込んで、駆除作業に追われているのですが、オオバナはこのナガエツルノゲイトウさえも駆逐してしまうという強烈な植物なのです。昨年霞ヶ浦で発見されたことから、印旛沼や手賀沼に入ってくるのも時間の問題として、専門家が非常に心配していた水草です。

勉強会では、オオバナ駆除の“先進県”である滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課の中井克樹さ

んが基調講演をなさり、霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼のオオバナの繁茂状況についても報告されました。

基調講演では、オオバナの侵略的特性(高い生育密度、葉や茎の断片からも増える、種子によっても増える、水陸両生、乾燥・光熱耐性が高い)や、悪影響(沿岸域を独占して他の植物を駆逐してしまう、水面を覆って水中を酸欠にする、船舶航行障害、農耕地への侵入、など)が紹介されました。滋賀県では対応が著しく遅れたわけではないが、オオバナの増殖があまりに早く、結果として現在も莫大な費用をかけて駆除し続けているそうです。また、手賀沼ではすでにオオバナが「初期」を過ぎてしまったので、一日も早い対応の必要性が強調されました。

○の中がオオバナ  
ミズキンバイ  
周囲の小さな花は  
ナガエツルノゲイトウ



## 千葉県3R推進シンポジウム(エコメッセ)

千葉県環境生活部循環型社会推進課 加藤岡 里奈子

千葉県では、循環型社会づくりを目指し、ごみを減らす(Reduce:リデュース)、くり返し使う(Reuse:リユース)、資源として再利用する(Recycle:リサイクル)の「3R」を進めるため、県民の皆さまを対象にしたシンポジウムを開催しています。

今年度は、食品ロスの削減を推進するため、食品ロスの削減に取り組む団体に事例発表をしていただき、そのあとは「減らそう!食品ロス!」をテーマにパネルディスカッションを実施していただきました。

- 1 テーマ 減らそう!食品ロス!
- 2 開催日時 平成29年10月9日(月・祝)  
13時30分~15時
- 3 開催場所 幕張メッセ国際会議場 中会議室  
201(「エコメッセ2017inちば」会場内)
- 4 来場者数 約70名
- 5 実施内容

### (1) 事例発表

- ①千葉市環境局資源循環部廃棄物対策課
- ②フードバンクちば
- ③生活協同組合コープみらい
- ④イオン株式会社

### (2) パネルディスカッション

- ・コーディネータ: 鬼沢 良子 氏

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット  
事務局長

### ・パネリスト: 事例発表団体

パネルディスカッションでは、「食品ロスを減らすために一人一人が今日から何をするのか」、「今日から実践できることは何か」、ということについて話し合いをしました。

パネリストからは、「食材を使い切ることだけでなく、地産地消や、旬の食材を使うこともエコにつながる。」、「今日明日中に食べるものは、期限が短いものを購入するということも食品ロスの削減につながる。」といった発言がありました。

### 6 おわりに

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」の発生量は、全国で年間600万トンを超えているといわれています。これは、日本人一人1日当たり換算すると、おおよそお茶碗一杯分の御飯の量が捨てられている計算になります。今回のシンポジウムでは、食品ロスに積極的に取り組んでいる団体に事例発表をしていただきましたが、食品ロスの削減を含む、3Rの推進には県民の皆様の協力が不可欠です。県では今後も3Rの推進に向けて活動していきます。

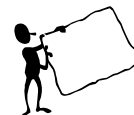


## 県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 41 —

おききました！ この人・この団体

## もったいないをありがとうへ～フードバンクちばの取り組み

フードバンクちば代表 菊地 謙



フードバンクとは、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄されている食品をご寄付いただき、生活に困っている人や福祉施設等に無償で提供する活動です。もともとアメリカで始まったとされ、日本でも10数年前に活動が始まり、千葉県では「フードバンクちば」が2012年5月に千葉市稲毛区で県内初のフードバンク団体として活動を開始しました。

近年フードバンク活動が広がっているのには大きく2つの背景があります。ひとつは「食品ロス」の問題です。平成26（2014）年の農林水産省の推計によると、全国で1年間に632万トンのまだ食べられるのに廃棄されている食品（＝食品ロス）が発生しており、これは食料自給率が低い日本にとっては大きな問題です。食品ロスの原因には、様々なものがありますが、その排出元の半分強が企業（食品メーカー、流通・小売業など）からで、残りが家庭からになります。

もうひとつの背景は、日本国内での貧困の拡大です。高度成長期以降2000年代半ばまで政府は貧困を国内の課題と捉えていませんでしたが、1990年代のバブル崩壊以降、生活保護を受給する人の数は増加を続け、2008年のリーマンショックとその後の派遣切り、「年越し派遣村」などを経て貧困の問題が顕在化していきます。失業し日々の食事にも事欠く人、子どもの学用品も買えないシングルマザー、空き缶拾いをしないと生活できない年金受給者など、一億総中流と言われてきた日本の社会構造が格差社会に変わりつつあることが明らかになりました。2015年には、新たに「生活困窮者自立支援法」が施行され、国の困窮者支援施策が本格的に始まっています。

フードバンクちばの母体となっているのは、船橋市を中心に活動する「ワーカーズコープちば」です。ワーカーズコープは、地域に必要な仕事を働く人が自ら出資し運営することを目指す協同労働の協同組合で、その事業の一環としてフードバンクに取り組んでいます。

フードバンクちばでは、特に家庭で余っている食品を寄付していただく「フードドライブ」活動に力を入れています。年間3回（5～6月、9～10月、1～2月）のキャンペーンを行い、市民に

広くお知らせして食品を集めます。最初はフードバンクちばの事務所のみで開始しましたが、千葉市社会福祉協議会にご協力いただくなど、受け取り窓口が徐々に増え、現在は各市町の社会福祉協議会を中心に、県内95か所で受付をしています。集めているのは、缶詰、レトルト食品、乾麺、調味料、米など常温で保存できる食品で、開封しておらず賞味期限が2ヶ月以上残っているものです。特に9～10月のフードドライブでは、各地の農家さんから多くの古米の寄付があるため、多いときには10トン以上の食品が集まるようになりました。

また、県内の各生活協同組合にもご賛同いただき、配達便で組合員の過程で余っている食品を集めたり、店舗に回収ボックスを設置したりするなど、さまざまにご協力をいただいています。今年9月～11月には県内4生協との共通キャンペーンも行い、多くの食品が寄せられました。最近では、一般企業からの食品寄付も増加してきています。

集めた食品は、県内の福祉施設や団体に提供したり、市役所や社会福祉協議会を通じて困窮する世帯への緊急の食品支援として提供しています。困窮世帯向けの支援は1か月200件ほどの依頼があり、毎日食品を箱詰めして宅配便で送っています。

まだまだ小さな取り組みですが、本当に困っている人をすぐに支援できる仕組みとしてフードバンクを発展させていきたいと思っています。ぜひ、ボランティアやサポート会員としてご協力をお願いいたします。<https://foodbank-chiba.com/>



# 運営委員会報告

## 臨時運営委員会

日時 10月24日(金) 18:00~20:50  
場所 船橋市民活動センター

### 【協議】

・法人設立について、申請書類の検討

## 10月運営委員会

日時 10月11日(水) 18:00~20:50

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・千葉県環境講座実施 9/20 10/9
- ・講演会 10/9 ・エコメッセ2017in ちば出展
- ・だより117号印刷発送 10/2
- ・法人準備会開催 ・いちほら環境フェスタ出展
- ・20周年記念講演会 1/13
- ・印旛沼流域環境フェア出展者説明会 10/2
- ・その他

### 【協議】

- ・だより118号
- ・印旛沼流域環境体験フェア出展 10/29
- ・千葉市緑ヶ丘公民館講座
- ・千葉県環境講座 10/12 10/27
- ・法人格検討委員会より
- ・その他

## 11月運営委員会

日時 11月8日(水) 18:00~20:50

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・千葉県環境講座実施 10/12 10/27
- ・法人準備会 10/19・26・31 11/6
- ・シーズ・市民活動を支える制度を作る会へ入会
- ・千葉市緑ヶ丘公民館講座 10/22
- ・印旛沼流域環境体験フェア 10/28 (29雨天中止)
- ・その他

### 【協議】

- ・千葉県環境講座 11/18・12・25 12/2 1/7
- ・市原市民大学 11/30 12/14
- ・ちば環境再生基金応募
- ・法人検討委員会より 12/23 設立総会

## お知らせ

エコプロ2017 環境とエネルギーの未来展  
～持続可能な社会の実現に向けて～

日時：12月7日・8日・9日 10:00~17:00

会場：東京ビッグサイト東1~5ホール

参加費：無料

主催：(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com>

ワシントン条約常設委員会報告会

日時：2017年12月21日(木) 19:00~20:30

会場：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)  
(東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル  
1F)

講師：鈴木希理恵氏 野生生物保全論研究会

<http://www.jwcs.org/>

参加費：一般1000円 学生500円

申し込み方法：直接会場にお越しください

報告会の詳細説明：2017年11月27日~12月1日  
スイスのジュネーブでワシントン条約常設委員

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: [info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com)

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		